

予報期間 7月17日から7月23日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 期間を通して、太平洋高気圧が日本付近に張り出す。
- 19日から20日にかけては、高気圧を回る湿った空気が、沖縄・奄美や西日本、北日本に流れ込みやすい状態が続く。
- 22日から23日にかけて、低気圧がアムール川下流付近からオホーツク海へ進む。

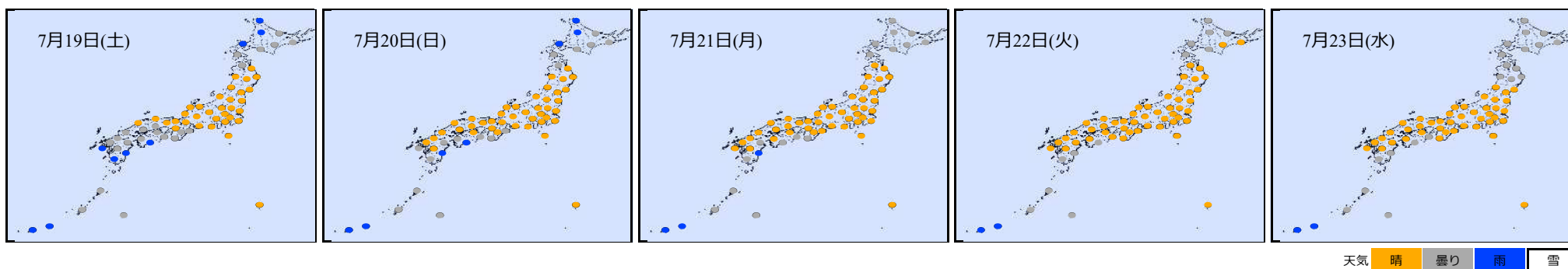
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 19日頃にかけて、北海道地方では暖かく湿った空気の流れ込みの程度等によっては、警報級の大雨となるおそれがある。
- 北日本から西日本にかけては、気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

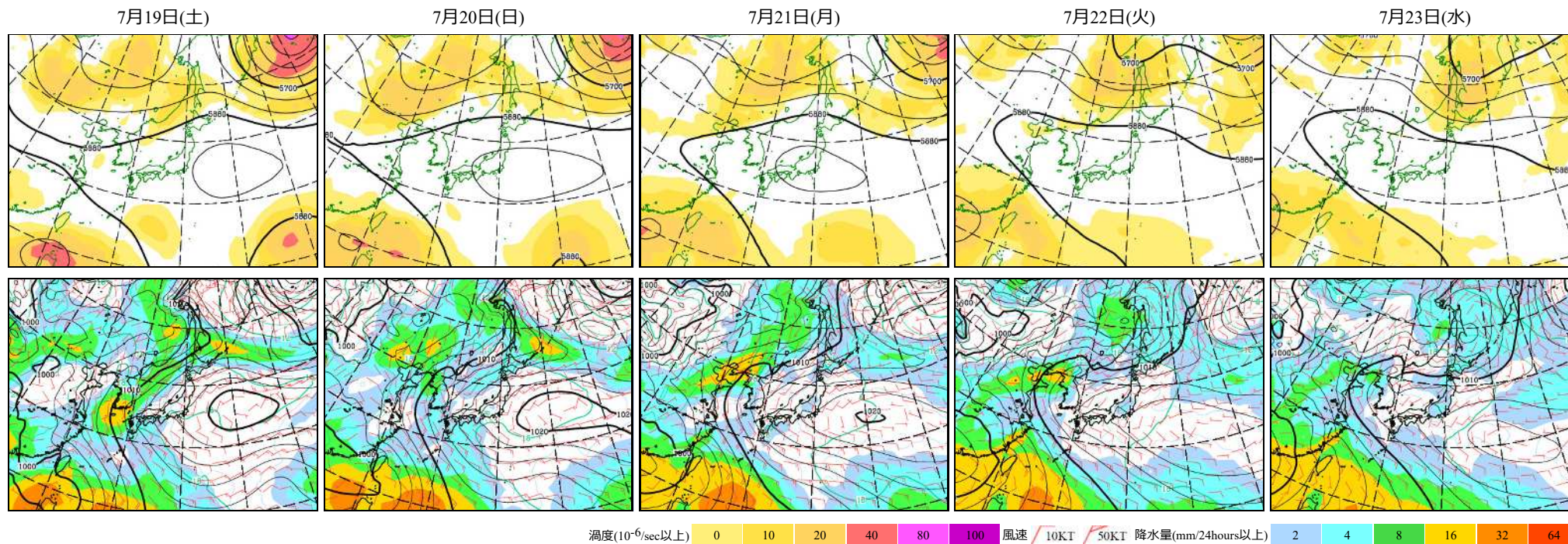
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

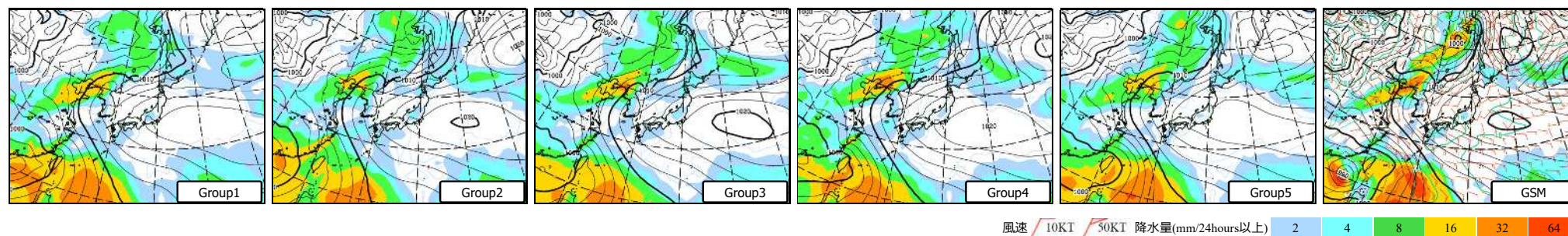


- 北海道地方は、雲が広がりやすく19日から20日は雨の降る所がある。
- 東北地方と東日本は、晴れる日が多い。
- 西日本は、19日は曇りや雨の降る所が多い。その後は晴れや曇りとなるが雨の降る所もある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月21日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、太平洋高気圧の西への張り出しが強まる傾向となったが、昨日モデルとの差は小さい。
- 降水確率ガイダンスは、昨日資料からの変化は小さい。
- スプレッドは期間の終わりで大きく、特定高度線のばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。